

東日本大震災 大分医療生協支援ニュース

No12
2011年5月2日
大分県医療生協
対策本部

堀さん(1病棟)、高山さん(3病棟)、山田さん(放射線) 元気に訪問活動…高山さんは避難所のリーダー



堀さん 4月26日

これからの宮城での重要視される援助は、メンタルケアが多くなって来るであろうと、現地の医師より言われました。実際に外来で来られる患者で、通り魔に刺され受診された方もいるそうです。

午前中に長町の郡山を訪問しました。集合場所である長町クリニックは地震により倒壊の恐れがあるため、近くの学習塾を集合場所にしていました。郡山は被災の影響をそこまで受けてはいませんでしたが、親戚や友人を無くし精神的に無気力になっているように思えました。

高山さん 4月26日

被災地をタクシーで回って来ました。

津波で、車や物が陸上にうちあげられている状態がまだあり、言葉が出ませんでした。病院内の状態は安定してきているみたいでしたが1日に5台ぐらい救急車の搬入があるそうです。

今日のミーティングの中で通り魔の話がありました。今日のお昼に通り魔から襲われ救急搬送されたそうです。



山田さん 4月27日

昨日は友の会のお便りを、手配りするという業務でした。地図を片手に歩き回る為、途中、地元の方に不審者扱いをされましたが、民医連の支援と告げると、『それは、すいません。頑張って下さい!』と非常に感謝されました。

実は震災直後から、現在まで空き巣等での被害が多く、皆さん警戒されているとの事です。

コンビニで買い物をしたときも、店員さんから『支援の方ですか?ありがとうございます』と声をかけられました。被災地の方の暖かい対応に、こちらが力付けられました。震災から1ヶ月以上がたち、だいぶ当初より片付いたらしいのですが、やはり海拔の差で状況は違いました。津波で一階が浸かった地域は、未だボイラーが使えず、親戚等の家でお風呂を借りているという声が多かったです。ある手配り先で、一階の掃除をされていた男性に声をかけたところ『何から手をつけていいやら』と目にみえて憔悴しきっている状態でした。

避難所からの報告でも、メンタルで弱っている方が非常に多いとの事でした。そういう地域でも少しずつ復興が始まっていて、あるコンビニでは店内が使えない為、駐車場にテーブルを出して品物をおき、中型の輸送トラックを改装し、中で弁当を売っていました。もうきれいに掃除されたスーパーでは、津波で瓶が割れなかったお酒等をアウトレット品として売っていました。昨日はそんな感じです。高山さんは、長期滞在の為、避難所のリーダーを任せられ、頑張り続けています。

宮城厚生協会
長町病院附属クリニック
震災被害状況

